智明寮 5・25～27 **48時間ハンスト**

## 寮闘争緊迫

# 自治寮防衛に起て

歩る5月25日正午から、智明寮新規入寮停止解除を訴える48時間ハンストが3名の有志により貫徹された。そしてなによりも今の学生が自らの問題として寮斗争を支援することが求められている。

〔編集部〕

歩る5月25日正午から、智明寮生若干名によって、智明寮新規入寮停止解除を訴える48時間ハンガーストライキが行なわれた。

25日午後0時半より図書館前にて、ハンスト突入集会が緑丘生約30名を集めて行なわれました。智明寮からの基調報告に始まり、北大寮連代表の支援アピールをかわきりに4団体から力強いアピールがなされた。その後、「智明寮自治闘争ノ新規入寮停止解除を解斥しろ！」等のシュプレヒコールを斉唱様に向って行なり、デモ行進が行なわれた。

26日午後0時半にはハンスト支援集会、27日同時刻にはハンスト貫徹集会が開かれ、団金名の結集のもと多く取られた。

大学当局はこのハンストに対して、突入前に学部長名で、ハンスト中止の警告を智明寮側に申し入れた。また、5月26日には「智明寮への新規入寮停止するまでの経過と現状について」というビラを出した。

このビラにはくわしい事情説明もなく、3・3全是にもふれられていない。3・3全是事前とは、水・武装占拠以外は全正常な入寮生活を送ることのできる一定基準を定め、10月以降は寮側と大学当局側との会談でできた自治寮の運営基準にそうしあわせて、大学当局の言うおゆる正常化を計る、入寮方法は4月に行う第一回目（新入生対象）のもの、81年4月に出された臨時寮に従って行なう。具体的には入寮願いを学生課長に提出して入寮選考、入寮許可を学生部長が行なう。当面は智明寮の入寮希望者と学生部長が入寮選考を行い、新入寮生名簿を作成のもと学生部長に提出していた」そして、2回目以降は話し合いのもと、従前の入寮方法にできるだけ戻す。

これが新規入寮停止解除に向けての3・3全是であり、当局は3・3全是で文部省に打診したのだが、文部省は3・3全是拒否により、さらに厳しい管理強化を自論む新寮規定を設けることを要求してきた。

寮生活・寮自治という共同生活の中から豊かな相互交流、問題意識の共有化を育なうことによって、自主的制度的活動の場これが今までの寮の存在意義なわけで、新寮規定はそれらを否定し、①門限制 ②食堂集会場なし ③大学管理運営 ④スパイ行為の導入 ⑤寮生の自治会活動の制限 ⑥寮生の自治会活動の制限 ⑦寮生の自治会活動の制限 ⑧寮生の自治会活動の制限 ⑨寮生の自治会活動の制限 ⑩寮生の自治会活動の制限 ⑪寮生の自治会活動の制限 ⑫寮生の自治会活動の制限 ⑬寮生の自治会活動の制限 ⑭寮生の自治会活動の制限 ⑮寮生の自治会活動の制限 ⑯寮生の自治会活動の制限 ⑰寮生の自治会活動の制限 ⑱寮生の自治会活動の制限 ⑲寮生の自治会活動の制限 ⑳寮生の自治会活動の制限

## 女子入寮裁判 和解へ

5月19日、第3回の智明寮女子入寮裁判和解交渉が、小樽裁判所にて行なわれた。和解内容は、女子入寮の是非は問わず、和解金20万円を寮が国に支払うということで、ほぼ和解交渉を行なうということになった。

智明寮女子入寮は76年4月に始まり、何度となく大学と寮側で話し合いが持たれたにもかかわらず、結着がつかなかった。80年3月、大学側はこの問題の学内での解決を放棄し、第3者にゆだねる形で裁判に訴えたのである。

これに対し、智明寮側は裁判を受けねば女子寮生が法的損害により、強制的に退去させられてしまうためつまり寮生の生活は寮生自身で守るという意味で、裁判斗争を開始した。しかしその後、女子寮生も卒業し、裁判斗争を続ける根拠が薄くなった結果、和解へと転換したのである。

裁判は和解へと転換し、一応結着がついたかに見えるが、学内で智明寮女子入寮をいかに捉え、これからの女子福利生活をどうするか、真に問われているのである。

## 緑丘祭企画

# 「平和を考えるシンポジウム」

今年度の緑丘祭において「82年平和を問うシンポジウム」が行なわれる。このシンポジウムは以下の通り。

●日時　6月26日(土)1時30分
●所　210番教室
●映画
「人間をかえせ」（反核映画「世界の人へ」（在日朝鮮人被爆者映画）
●講演
坪井主税（小樽を非核都市にする市民連絡会・代表）
テーマ「核兵器の恐怖」
林　弘泽（イム・ピュンテク）（在日韓国青年同盟道本部委員長）
テーマ「いま朝鮮半島に核戦争の危機が……」

5・23実行委員会より40万人結集したことにみられるように、いま全国で反核運動が盛りあがっている。ヨーロッパの反核運動の高揚を受けるかたちではじまった日本における反核は一種のブームの感を呈している。しかし実際の盛りあがりを示した反核運動も自民党連絡総会以降とのような方向性をたどっていくのだろうか。

いま反核運動に最も要求されることは様々な視点をもたらしたちが持つことではないだろうか経済・社会構造もどうして存在しているのかを問うことである。

4・27　講演会その桑原重夫氏の反核運動に対する疑義はその点で非常に示唆にとんでいた。つまり、「日韓を不問に附す反核運動ではこまる。なぜならいま朝鮮半島に最もホットな核戦争の危機があるのだから」ということである。

今回のシンポジウムはこのような視点から反核運動へのアプローチを試みるということで開催される。なお、このシンポジウムは緑丘学友諸君ばかりでなく小樽の労働者・市民にも解放される。ぜひ結集を！

小樽商大緑丘新聞

発行所
小樽商科大学
緑丘新聞会
小樽市緑3丁目5番21号
電話　代表　㉑1101
内線　360（新聞会）

編集部員募集
寄稿歓迎

# 4・27 桑原氏講演報告

## '81・1・23全大中氏「減刑」が分岐点

4月27日　小樽商大において新入生歓迎行事の一環として桑原重夫氏の講演会が行なわれた。桑原氏は関西の地で在日韓国人政治犯の救援運動を長年にわたって取り組まれてきた方である。

講演テーマは「緑会設立を制す（韓国問題）」主催者の意図していた通りの講演内容が展開された。桑原氏は冒頭、「何故、無辜善良な日本人学生諸君が韓国人政治犯の問題といった重苦しい自体問題分野を自論んだのである。

現在、智明寮生数は20名ぐらいに減少している。このままでは自然廃寮は確実である。何としても解除したい熱い思いが48時間ハンストになって現われた。

この寮側の思いと従前の自治会全国組織化の意図が、商大当局への新規入寮停止命令の撤回を求める抗議行動へと発展していった。

桑原氏は現在の日韓関係、とりわけ80年5月17日軍事クーデターによって登場した全斗煥（チョン・ド・ファン）体制の実態とその国際的な背景について語られた。その中で特に強調されたことは、81年1月23日の全大中（キム・デジュン）氏「減刑」の意味するところはなんなのかということであった。「1・23減刑」によって全斗煥政権はあたかも人権を尊重するかのごとく振るまい、そして国際的に認知されることを狙ったのである。これが「表の狙い」だと言えるならば、「1・23」には「裏の狙い」があった。それは「1・23」を機にアジアにおける米日韓を中心とする軍事同盟の新たな強化についてである。

「日韓関係」は現在でも日帝の政治的・経済的「生命線」であり、日帝は表面の「表の狙い」を見据えられなかったからではないのか。つまり戦前侵略を配からはまるさらに桑原氏は日韓連帯運動が韓国労働者・農民の願いに眼が向いていなかったのではないかと語られた。80年光州蜂起の主体が労働者・農民であったこと。そして全斗煥体制といまだ闘い続けているのは労働者・農民でありわれわれは彼らを注視・支援していかなければならないと提起され、最後に「韓国労働者・農民がいま闘おうとしているものを、こちら側から整っていく」それが日韓連帯ではないかと強調を結ばれた。

桑原氏の今回の講演は政治犯救援という実践を積み重ねられてきたうえでのものだけに実に説得力があるものに感じられた。

――◇――◇――

この時間、高台にある商大にはさしもが射しているときなどはのどかこの上ない平和な学園風景である。

▼だが"頭を洗い"しれば、鉄の冷たい感触がある。イ・政権、アフガンのソ連軍への援助、政情不安なニカラグア、そして、ポーランド問題…▼ところで戦争を体験した年代にとかく我々はこの手紙の当時をどう受取るのか。例えば「英、ア軍艦撃沈」という見出しに対して、毎日が同じ生活には、黒抜きの文字が大きくなることを期待する感情がないだろうか。初め、人間では当然のことを言うとしても。▼この戦争を、営利的生活の権勢物としての世界の制覇と考えるのは危険なことだ。というのは、一般の日本人の反応は欧米に比べると冷やかだからだ。しかし、痛み始めれば出てくるところで、戦争を起こしたりすれば、次の手は連てない。国民が腰を上げなければ政治家連中を動かすことができない。▼情報化社会においては、戦争は、外側から自己へのインプット・刺激である。それに対して、内側からの刺激はサルトルの云う自己投企、社会への自己参加により常新的生活に緊張の糸を打ち手こともある。つまり、自己から社会へ刺激する人間だ。▼その姿は海底のウニに似ている。ウニは、四方八方に伸ばした鋭い針で、外界を刺激し、身を守っている。ちなに、甚だなサメも、怖くて小さなウニを飲み込めないだろう。

すぐに役立つ便利な資格!!
普通●大型特殊●二輪(小●中)免許
小樽中央自動車学校
☎26―3515
国道5号線　自動車学校前(中央バス停下車)

# 5.23 反核東京行動ルポ

寄稿 ― 川越美希子

6月7日よりニューヨークで第二回国連軍縮特別総会が開かれている。これをひかえて、反核運動が今までにない全国的盛り上がりをみせた。それの一つの頂点となったのが5・23反核東京行動である。四〇万人（主催者側発表）という空前の参加者を集めた。この反核東京行動に「小樽を非核都市にする市民連絡会」より参加された川越さんに寄稿していただいた。〔編集部〕

核戦争の現実的な恐怖で目覚めた欧州の人々による反核運動の空前の盛り上がりに、あられるように急速に盛り上り始めた日本の反核運動。その高まりに反比例して、あたしの反核に対する想いはこのところ盛り下る一方だった。安保や防衛費増加を認めることと、平和を望むことが両立するだろうか。原発を推進し放射性廃棄物の海洋投棄や下請け労働者の酷使を見過ごした反核は片手落ちじゃないかしらん。国連軍縮特別総会に対し余りにも大きな幻想を抱いている間にも戦争への体制は着々とつくられている。教科書攻撃・非核三原則の形骸化・平和憲法改悪の動き、リムパック82や本須有事前提の自衛隊演習……それらを不問にしたまま唯一反核の"ヒロシマ"だけが大きくなってく。そんな不安を抱きながら、5月23日あたし代々木の「ティーチ・インの広場」に居た。「東京行動」の頂点は、全国の反核運動の代表者による「ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャ・ティーチ・インの広場」に居た。「日本はこれでいいのか市民連合」の小田実や自主講座運営委員会の学者純・日本消費者連盟の竹内一等が呼びかけたこの集会は、中川五郎さんや新谷のり子さんの歌をはさんで一人4分のスピーチが11時から4時半まで休みなしで続いた。各地で反安保・反自衛隊・反基地・反原発に取り組む人々。自らの職場の兵器生産に反対する労働者、ニセ学生、右翼労働組一と戦う労組員、軍備増強に立ち上った元自衛隊員、えん罪被害者、軍事費拒否のグループ、エコロジスト・消費者団体・婦人団体。実に様々なグループがステージに登った。「唯一の被爆国民として世界の平和運動に貢献してきた責任を果たし、私たちの生活の場である市民生活と積極的に結びつけた運動を作り出そう」……この時、会場一杯に満ち溢れるような和平を世界中に発せたかった。

恐らく、こうした反核世論の盛り上がりがなかったら"生きよう"ことがなかったろう人々が、この日集会った。各々の意識・方法論には大きな差があり、それは当然だ。互いに異なるという事実を認めていかなければならない。なれあってあいまいにしてもいけない。民主主義って非常に時間のかかるシンドイ作業だ。だからと言って力づくや他を倒したり互いに無関心になっちゃったら、なんにもならないんだ。今、地上では二分間に四万ドル以上が軍備に費やされている。同じ二分間に4人（一日に5千人、一年に約百万人）の子供が飢えで死んでいる。人類の3分の1は飢餓の危機にさらされ、極度自本の今経済的に疲弊する構造が顕在化している。だけど、ニヒリスティックになっちゃダメ。その軍備費を半月分ストップさせるだけで、世界中の飢えも結核も皆なくせる年間の軍備費の5%を食い止められる。人間てスゴイと思わない？地球はまだまだ捨てたものじゃないんだ。

今、あたし達は置換を迫られてる。未来にわたってこの小さな星で互いに愛し合っていくか人類だけでなく全ての生き物・環境までを巻き添えに破滅への道を進むか。その決着は国連にも政府のお偉方にもない。というより彼らに決してまってはいけない。決定権を自分の手に取り戻すこと、それが真の和の運動だもの。

なんかね、田舎が大きすぎて複雑すぎて見えなくなったり平和ボケしちゃったりしてめんどくさくなったり、放棄したらオシマイ。あなたまかせの平和から手作りの本物の平和にしなくちゃね。田舎時代に生れ合せたのは偶然だけど、そこからやさしい平和な関係つくり出して行こうよ。

（かわばたきみこ　小樽と核都市にする市民連絡会員　公務員）

代々木会場・ティーチインの広場

# 5.27 生協・学生大会 報告

82年度の小樽商大生活協同組合とサークル連合の活動方針を決定する生協総会と学生大会が、去る5月27日（1時より生協総会、続いて3時より学生大会）開かれた。

「生協総会では、今年度生協理事が承認され、昨年度活動報告決算報告がなされ、今年度活動方針が承認された。

「学生大会は主催団体のサークル連合とサークル総連合の活動方針、度活動報告・決算報告後、今年サークル会館建設問題が討議された。

新サークル会館の大筋の骨子もでき上がり、あとは予算がつくというところまで話は進んでいる。しかし、サ連事務局も説明する通り面積・管理・運営面で、かなりの妥協をしいられた。その意味で新サークル会館斗争はこれで終ったのではなく、新たに始まったと言えるだろう。また、建設場所については600番隊跡地にはこだわらないということであるが、隣の学生会館の狭わい化をみてもこれからの課題になったと言える。

使いものになるサークル会館とは単に建物が新しくなることだけでなく、その空間で学生の主体的活動を自分達で保障し、維持してゆくことを忘れてはならない。

学生大会の最後に管理室から新規入会学生解除に向けてのアピールがあった。唯一の学生寮であり、現状のまま十分使用可能でありながら全部否の政策で入寮できないのは、異常事態である。早期解決が望まれる。

# 緊急アピール

# 徐勝さん20日間ハンストへ

6月4日、『徐君兄弟を救う会』より緊急アピールがはいった。在日韓国人政治犯、徐勝氏が20日間の獄中ハンストにはいったのである。これは生命を賭した人間としてのギリギリのたたかいである。しかしながらブルジョア・マスコミには一切このことは報道されていない。ここに『緊急アピール』を抜粋転載するなお、徐夫妹氏で抗議ハガキや抜っているので御協力を！（連絡は当面会まで）　〔編集部〕

逮捕した氏会のメンバーによると、5月28日より20日間の獄中ハンガーストライキにはいったこのハンストは⑴徐勝さん自身に加えられているさびしい『転向強要』は人権侵害である⑵の徐俊植さんをただ保安監護処分を科されたことは不当である⑶とする徐勝さんの韓国政府当局への抗議の意思表示である。

むろんまでもなく、20日間にもわたる獄中ハンストは徐勝さんの生命すら身がしかねない。合法的な言論申し立ての機会すら奪われている徐勝さんは、生命への人道的な緊急を救援するための支援の行動を展開して韓国政府当局の非人道的なやり反民主主義的な政策に抗議しようとしている。

（中略）徐勝さんの今回のハンストは人間としての良心と尊厳を守ろうとするギリギリのたたかいである。それはまた、ひとり徐勝さんのみならず、徐俊植さんへの二度目の保安監護処分の適用に表れたような、韓国政府当局の非人道的な人権抑圧すべてに対する当局の非道な弾圧に対する宣発である。……（中略）……私たちは内外のすべての人びとに対し徐勝さんのハンガーストライキを支援するとともに、徐勝さんへの人道的な緊急を救援するための支援の行動を展開して韓国政府当局の非人道的なやり反民主主義的な政策に抗議しようとしている。

（中略）徐勝さんの今回のハンストは人間としての良心と尊厳を守ろうとするギリギリのたたかいである。それはまた、ひとり徐勝さんのみならず、徐俊植さんへの二度目の保安監護処分の適用に表れたような、韓国政府当局の非人道的な人権抑圧すべてに対する当局の非道な弾圧に対する宣発である。……（中略）……私たちは内外のすべての人びとに対し徐勝さんのハンガーストライキを支援するとともに、徐勝さんへの人道的な緊急を救援するための支援の行動を展開して韓国政府当局の非人道

# 小樽再考

## ―7・4都市の修復と再生に関する小樽シンポジウム

7月4日(日)、小樽民師会館にて、『都市の修復と再生』に関する小樽シンポジウム」が開催される。

このシンポジウムは、全国の都市に共通する課題である「都市の修復と再生」をテーマに、都市問題に関して住宅、建築、財政、経済、環境、公衆衛生、法制などの幅広い分野からアプローチしておられる、わが国第一線の研究者のグループである『都市研究集談会』と、全国の水の都の市民がともに手を結び、都市と水辺が平和共存するまちづくりをめざす「水都再生のための全国会議準備会」が主催しておこなわれるものです。開催地に小樽があらばれたのは、『都市の修復と再生』という現代都市の課題に、いろいろな意味で、小樽がぴったりの条件をそなえているからにほかならない。

このようなシンポジウムが小樽で開催されるのはまたとない機会である。ぜひこのシンポジウムに参加し、一緒に語りあい学び合う中で、わが愛する街である小樽のことをとらえなおしてみよう。そのことを通じて、小樽において経済、文化、環境、交通、市民生活などの様々な問題があらわれてきている諸問題の解決の糸口を見つけ出し、暮らしやすいまちとして再生する方向をさぐり出そうではないか。

〈プログラム〉

第一部（9：30～12：30）
「都市の修復と再生」

第二部（1：30～5：00）
「小樽の都市再生の方向」

参加費は一〇〇〇円資料代徒食代を含む

# 反核映画全道上映キャラバン 7.17小樽上映会

7月17日、反核映画上映会が反核映画上映小樽市民の会の主催で実現会館において開催される。この上映会は、6月12日旭川を皮切りに道内約30ヵ所で行う「反核映画全道上映キャラバン」の一環として行われるものである。上映される映画は「人間をかえせ」「広島・長崎一九四五年八月」「世界の人へ」「世界は恐怖する」で約三時間の上映である。

現在、反核運動が大きなうねりを示している。しかし、それはあまりに感覚的な面をもっている。核兵器は一度に数十万の人間を殺す。放射能は危険なものである。だから、核はこわい。だという通り一遍の理論の上に成り立っている。確固とした知識のないままに反核が叫ばれている。根本的なものはそのままで実現してよいかもしれない。しかし、今後反核を発展させ、更に一人一人が運動を展開していくためには、この上映会はぜひ行きたい。そのためには核の実体を知ることが必要である。

その意味において「世界は恐怖する」は非常に得る所がある。この映画は放射能がどんなものであり、それが生物及び人間にどのような影響をあたえるのかを知うたものである。この映画だけでもみる価値がある。

もう一度、反核を再考してみよう。この映画会はそのいい機会になると思う。

（一三〇―六：〇〇―
場所：実理医師ホール）

日本交通公社
小樽支店 〒047 小樽市稲穂3―9―1（駅前第3ビル）
電話1本で　パンフレット送付からお申込まですべてOK
●国内旅行はエース　0134(23)3101
●海外旅行はルック
●旅行（国内・海外）　0134(25)7826
●ゼミナール、帰省等
旅はあなたの街の交通公社へ

第30回緑丘祭
〔行事スケジュール〕
6/23 Beer Party
18：00～21：00
（大集会室）¥250
24 映画「道」14：30～16：30
無料
17：00～19：00
（大集会室）
25 LIVE HOUSE
18：30～20：00
ロブバート（大集会室）
¥1,000（学内前売¥800）
26 平和を考えるシンポジウム
13：30～16：30(210)
Dance Party
18：00～21：00(大集会室)
¥400（コーラ付）
27 哲学原論講演会
14：30～17：00
「映画に見る男の生き方」(210)¥200
ウルトラ成金クイズ 12：30～
自由参加無料（屋外ステージ）
市民公開講座
26日 「コンピューターと人間 ―コンピューターが考え始める日」
14：00～16：30 (213)
「自動車問題のゆくえ」
16：00～17：00 (307)
27日 「経済の現実と経済学の現実の間で」13：00～14：30 (307)

麻雀荘
気のいいマスターの店
国士無双
サービスピカ1ノ
☎ 33―1372
緑1丁目商大通り（富岡教会前）